



1 金メダル凱旋パレードで市民に囲まれる吉田さん 2 アトランタ五輪 3 2013年6月、11年ぶりに現役復帰し、全日本実業柔道団体対抗大会で準優勝に輝く 4 現役選手との稽古 5 柔道教室で子どもにも教えます (3/4/5 パーク2 4 提供)

柔道に身をささげてきた自らを振り返り、「柔道は自分の中心。柔道をやっていなければ今の自分はありません」と柔道愛を語ります。

根っからの柔道家・吉田さんは、引退後、総合格闘技に参加し、その後再び柔道界に復帰します。現在は五輪メダリストも所属するパーク24柔道部の総監督を務めています。「今は柔道の指導より、選手の練習環境をいかに整えてあげられるか、そういった点に力を入れていきます」と、サポート役に徹しています。また、小学生を対象にした無料の柔道教室を毎週開催するなど、柔道の普及活動にも力を入れています。

柔道は自分の中心。

五輪柔道金メダリスト

吉田 秀彦



「時」 が経つのは早いものです。皆さん覚えていませんか？」と笑顔で話すのは、市出身で平成4年のバルセロナ五輪柔道男子78kg級で金メダルを獲得した吉田秀彦さん。優勝を決め、拳を天に突き上げ、全身で喜びを表したシーンや、柔道引退後に参戦した総合格闘技で、各界の強者と戦う姿を覚えている方も多いのではないのでしょうか。

現在も柔道に関わる大府市初の金メダリスト・吉田秀彦さん。当時の話や東京五輪への思いを語ります。

応援があつての金メダル

平成4年のバルセロナ五輪後の凱旋パレードには、大府市初の五輪金メダリストの誕生に沸く市民が数多く駆け付け、「天府駅を降りるとあふれんばかりの人が出迎えてくれていました。「大府市にこんな人がおったんだ」と驚いたことを覚えています。金メダルを取れたのは、たくさんの方の応援があつたからこそ。感謝です」と話します。この時、吉田さんには市から第1号となる市スポーツ功労者表彰が贈られています。

大府から金メダリストが再び現れることを願う

東京五輪については「自国で行われるオリンピックは正直うらやましいですね。選手たちにとっても最初で最後の日本でのオリンピック。目標に向かって、一生懸命頑張つてほしい」と力を込めて話します。「東京五輪は市民の皆さんにとっても一大イベント。選手たちを一丸となつて応援しましょう」

根性が鍛えられた少年時代

柔道を始めるまでサッカー・バスケットボール・水泳など、さまざまなスポーツをやっていた吉田さん。鼓笛隊でトランペットを吹いていたこともあったそうです。

吉田さんが柔道を始めたのは小学4年生の時。新聞で柔道教室の生徒募集を見た父親から勧められたのがきっかけでした。練習は長草公会堂2階や体育センターに畳を敷いて行われたそう。練習後の体育センターのジュースの味が忘れられない」と当時のエピソードも教えてくれました。

柔道がなければ今はない

この柔道教室では、後の柔道人生に大きな影響を与える恩師・大石康先生と出会います。「小さな頃から基礎をきっちり教える」を指導方針とする大石先生の練習は厳しく、「当時は泣きながら柔道をしていました。大石先生には「根性」を鍛えられました」と懐かしそうに振り返ります。苦しかった当時の経験は今でも生きてきていると言いつつ、大石先生から教わった技は「天外刈り。大石先生に教わった最初で最後の技です」といたずらっぽく笑います。

輝かしい成績を残してきた吉田さんですが、けがの影響もあり、30歳過ぎで選手生活にピリオドを打ちました。



▲1991年1月15日号裏表紙



▲1992年9月1日号中面(金メダル凱旋パレード)

広報おおぶに掲載した吉田さんの活躍。明治大学3年時に嘉納治五郎杯国際柔道大会で優勝した後に、感想などをインタビューした記事や、バルセロナ五輪での優勝決定の瞬間、大府駅から市役所までの凱旋パレードをする様子を掲載しました。



▲1992年8月15日号表紙